

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名（化学名、商品名）：スプレー 1 1 0 パワーループ
主用途として防錆油（溶剤希釈型）等

会社名：協同油脂株式会社
住所：神奈川県藤沢市辻堂神台 2-2-30
担当部門：営業管理部
電話番号：0466-33-3113
FAX番号：0466-33-3054
緊急連絡先（部署）：技術本部
緊急連絡先（電話番号）：0466-33-3112
整理番号：31-653

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

エアゾール：区分 2
引火性液体：区分 3

健康有害性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 3（麻酔作用）

環境に関する有害性

水生環境有害性（長期間）：区分 4

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語：警告

危険有害性情報

- (H 2 2 3) 可燃性又は引火性の高いエアゾール
- (H 2 2 6) 引火性液体及び蒸気
- (H 2 2 9) 高压容器：熱すると破裂のおそれ
- (H 3 3 6) 眠気又はめまいのおそれ
- (H 4 1 3) 長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ

注意書き

安全対策

- (P 2 1 0) 炎や高温のもののような着火源から遠ざけること。
- (P 2 1 1) 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
- (P 2 3 3) 容器を密閉しておくこと。
- (P 2 4 0) 容器を接地すること。
- (P 2 4 1) 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
- (P 2 4 2) 火花を発生させない工具を使用すること。
- (P 2 4 3) 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- (P 2 5 1) 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
- (P 2 6 1) 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
- (P 2 7 1) 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- (P 2 7 3) 環境への放出を避けること。
- (P 2 8 0) 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

- (P 3 0 3 + P 3 6 1 + P 3 5 3)
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

[スプレー 1 1 0 パワーループ][協同油脂株式会社][31-653]

(P 3 0 4 + P 3 4 0)

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

(P 3 1 2) 気分が悪い時は医師に連絡すること。

(P 3 7 0 + P 3 7 8)

火災の場合：消火するために、粉末、炭酸ガス、泡消火剤等を使用すること。

保管

(P 4 0 3 + P 2 3 3)

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

(P 4 0 3 + P 2 3 5)

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

(P 4 0 5) 施錠して保管すること。

(P 4 1 0 + P 4 1 2)

日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

廃棄

(P 5 0 1) 内容物／容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則（明示する）に従い廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分及び含有量

| | |
|------------------|----------|
| 基油（精製鉱油、ナフサ） | 40－50質量% |
| 噴射剤（DME、LPG、ブタン） | 45－55質量% |
| 添加剤（防錆剤、消泡剤） | 5質量%以下 |

化学特性（化学式）：特定できない

危険有害成分

労働安全衛生法

鉱油

5－15質量%

ブタン

25－35質量%

P R T R法*

：非該当

（*特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律）

4. 応急措置

目に入った場合：清浄な水で15分間洗浄し、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：よく拭き取った後、水と石けんで十分洗浄する。

吸入した場合：新鮮な空気のところへ移し、身体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：無理に吐かせずに、直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤：泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂。

使ってはならない消火剤：注水は、火災を拡大し危険な場合がある。

火災時の特定危険有害性：エアゾール缶が高温にさらされると缶が破裂する恐れがある。

特定の消火方法：初期の火災には粉末、炭酸ガス、乾燥砂等の消火剤を用いる。高温にさらされるエアゾール缶や周囲の設備には水をかけて冷却する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火を行う者の保護：消火を行う際は保護具を着用する。

消火作業は風上から行う。缶が破裂する恐れがあるため十分に距離を取って消火活動を行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時処置

：作業の際には、必ず保護具を着用する。

環境に対する注意事項：漏出した製品が河川等に排出されないように注意する。

除去方法：少量の場合には乾燥砂、おがくず、ウエス等に吸着させて、密閉できる空容器に回収する。

二次災害の防止策：付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・蒸気を吸入すると中毒を起こす恐れがあるので、換気の良い所で使用し、食品、人に向けて絶対に噴射しないこと。
- ・蒸気、ミスト等が発散する場合は発生源の密閉装置、局所排気装置等の設備を設置する。
- ・消防法の規定に従い取扱う場合は定められた基準を満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。

注意事項

- ・目に入ると炎症を起こすことがある。取扱う際は保護眼鏡を使用して目に入らないようにする。
- ・皮膚に触れると炎症を起こすことがある。取扱う際は保護手袋を使用する等して皮膚に触れないようにする。
- ・ミスト又は蒸気を吸入すると気分が悪くなることがある。取扱う際は呼吸器具を使用する等してミスト又は蒸気を吸入しないようにする。
- ・引火することがあるので、換気の良いところで取り扱うと共に、火気を近づけないようにする。
- ・誤って飲み込むと下痢・嘔吐することがある。

安全取扱い注意事項

- ・可燃性の高压ガス（LPG）を噴射剤として使用しており、危険であるため下記の注意を守ること。
 - ①炎に向けて使用しないこと。
 - ②ストーブやコンロなど火気の付近で使用しないこと。
 - ③火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
 - ④温度が40度以上となるとところに置かないこと。
 - ⑤火の中へ入れないこと。
 - ⑥使いきって捨てること。
- ・容器をよく振ってから使用する。缶内を攪拌しないまま、使用すると目詰まりすることがある。
- ・噴射口を吹きつけ面に向けて15-20cm離して吹きつける、また狭いところや手の届かないところに吹きつける場合はノズルを使用する。

保管

適切な保管条件

- ・消防法の規定に従い、決められた貯蔵場所、貯蔵方法により保管する。
- ・破裂の原因となるので、40度以上の所や直射日光の当たる場所を避け、火気、熱源から遠ざけて保管する。
- ・錆の発生しやすい水分・湿気の多い所での保管も破裂の原因になるので避けること。
- ・子供の手の届かない所に保管すること。

安全な容器包装材料

- ・空容器に圧力をかけない。
- ・容器は溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

：全体換気又は局所排気装置の設置、または、屋外で使用する。

許容濃度

ブタン

日本産業衛生学会誌

：500ppm（文献2）

ACGIH

：TWA 1000ppm（文献3）

プロパン

ACGIH

：TWA 1000ppm（文献3）

[スプレー 1 1 0 パワーループ][協同油脂株式会社][31-653]

鉍油

ACGIH

: TWA 5 mg/m³ (文献3)

鉍油ミスト

日本産業衛生学会誌

: 3 mg/m³ (文献2)

保護具

呼吸用の保護具

: 必要に応じて防毒マスク(有機ガス)を着用する。

手の保護具

: 長時間または繰り返し接触する場合は、耐油用保護手袋を使用する。

目の保護具

: 飛沫が飛ぶ場合はゴーグル型眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

: 長時間にわたり取扱う場合、または濡れる場合は、耐油性の長袖作業衣を着用する。

濡れた衣服は直ちに脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理状態及び化学的性質(噴射剤のLPGを除いた原液で)

物理的状態

形状 : 液体

色 : 褐色

臭い : 僅かな臭気

引火点 : 58°C (COC)

密度 : 0.81 (15°C) g/cm³

溶解性 : 水に不溶

その他のデータ

動粘度 : 3.3 m²/s (40°C)

エアゾール引火性試験 45 cm 以上

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の状態では安定。

反応性 : 強酸化剤との接触を避ける。

危険有害な分解生成物 : 現在のところ有用な情報なし。

11. 有害性情報

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: 各成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)より、混合物は区分3(麻酔作用)と分類される。

その他

: 現在のところ有用なデータなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性(長期間)

: 各成分の水生環境有害性(長期間)より、混合物は区分4と分類される。

その他

: 現在のところ有用なデータなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い適正に処理する。

・都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合は、そこに委託して処理する。

・投棄禁止。

・埋立て処分を行う場合は、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについて、総理府で定めた物質が基準以下であることを確認しなければならない。

・燃焼する場合は、安全な場所で、かつ燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うとともに、見張り人をつけること。

[スプレー 1 1 0 パワーループ][協同油脂株式会社][31-653]

汚染容器・包装

- ・捨てるときは、火気のない屋外で噴射音が消えるまで、ボタンを押し、ガスを完全に抜いてから、不燃ゴミとして廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

| | |
|------|--------------------------------|
| 国連分類 | : クラス 2. 1 (引火性高压ガス) |
| 国連番号 | : 1 9 5 0 (エアゾール) |
| 国内規制 | |
| 陸上輸送 | : 消防法 危険物第 4 類第 2 石油類 危険等級 III |
| 海上輸送 | : 船舶安全法 危険物 引火性高压ガス クラス 2. 1 |
| 航空輸送 | : 航空法 危険物 引火性高压ガス クラス 2. 1 |

輸送上の特定の安全対策

- ・可燃性の液体なので「火気厳禁」
- ・容器が破損しないように、ていねいに扱う。
- ・荷崩れや落下事故を起こさないよう、荷造りを十分にした上で積み込む。

1 5. 適用法令

法令情報

| | |
|------------------|--------------------------------|
| 消防法 | : 危険物第 4 類第 2 石油類 (非水溶性液体) |
| 労働安全衛生法 | : 通知対象物 危険物 引火性のもの及び可燃性のガス |
| P R T R 法 | : 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 水質汚濁防止法 | : 油分排出規制 (ノルマルヘキサン抽出分として検出される) |
| 海洋汚染防止法 | : 油分排出規制 (原則禁止) |
| 下水道法 | : 鉱油類排出規制 (5 m g / L 許容濃度) |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | : 産業廃棄物規制 (拡散、流出の禁止) |
| 高压ガス保安法 | : L P G 適用除外 |

1 6. その他

問い合わせ先

| | |
|-------|----------------|
| 会社名 | : 協同油脂株式会社 |
| 担当部門 | : 営業管理部 |
| 電話番号 | : 0466-33-3113 |
| FAX番号 | : 0466-33-3054 |

引用文献等

1. JIS Z 7253:2012 「G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 — ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (S D S) 」
2. 許容濃度の勧告 (2 0 1 0) 日本産業衛生学会 産衛誌 5 2 巻
3. Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH(2012)
4. IARC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS VOLUME 33
5. C L P に関する欧州議会および理事会規則 (EC)No1272/2008 付属書 VI 「有害性物質の調和化された分類および表示のリスト」

ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。

ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をお取り下さるようお願いいたします。